

# 札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会 検討報告書 - いつまでも活躍できるまちを目指して（提言）の概要

本委員会は、高齢者の社会参加支援の在り方について検討するため、札幌市の附属機関として平成28年4月に設置され、7回の会議を開催しました。

8か月にわたる議論の成果を、取組の方向性及び再構築の考え方について提言するものとして検討報告書に取りまとめました。

## 1 検討事項

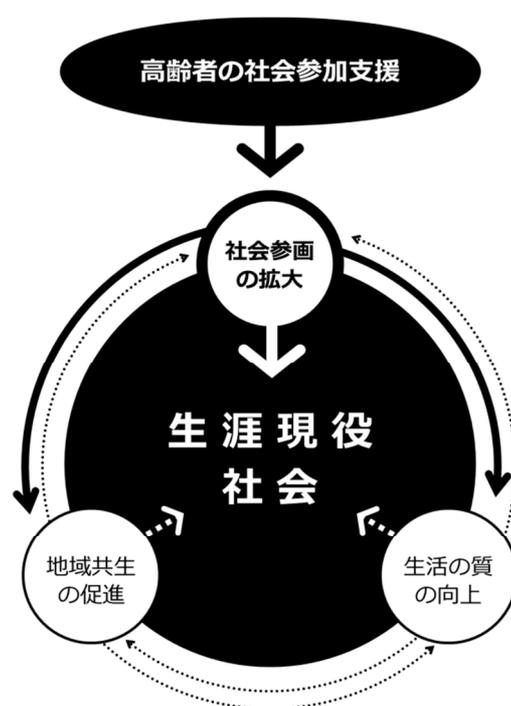
少子高齢化・人口減少に伴い、労働力の減少による経済規模縮小や、医療・介護等の社会保障費増大による財政悪化等、様々な社会的影響が懸念されています。今後、超高齢・人口減少社会にあっても社会の安心と活力を高めるためには、年齢や性別に関わらず全ての人が支え合える社会を構築することが必要であり、意欲と能力のある高齢者には、豊富な経験や知識を生かしながら、地域の一員として社会・経済を支える役割を担い、活躍することが求められるところです。

本委員会では、札幌市における高齢者の社会参加支援の在り方について、「生涯現役社会」を目指すものとして、今後の取組の方向性を検討しました。

### 目指す将来像「生涯現役社会」

高齢者の社会参加支援を検討するにあたり、高齢社会対策基本法の基本理念に基づき、誰もが生涯にわたって、健康で充実した生活を保ちながら、社会の一員として役割を持って活躍し、世代を超えて支え合える「生涯現役社会」を、取組を通じて目指す将来像としました。

本委員会では、「生涯現役社会」を構成し、相互に関連し、好循環を成す3つの要素「社会参画の拡大」、「地域共生の促進」、「生活の質の向上」のうち、特に「社会参画の拡大」の側面からのアプローチについて検討しました。



## 2 社会参加に関する市民意識

市民 8,000 人を対象とするアンケート「社会参加に関する市民意識調査」が実施されました。

《主な調査結果》

### 多世代交流の必要性

「とても必要だと思う」または  
「まあ必要だと思う」  
64 歳以下 (79.1%)  
65 歳以上 (73.9%)  
「あまり必要だと思わない」または  
「まったく必要だと思わない」  
64 歳以下 (9.3%)  
65 歳以上 (10.7%)

### 高齢者との交流／若い世代との交流

「よくある」または  
「たまにある」  
64 歳以下 (39.3%)  
65 歳以上 (47.0%)  
「あまりない」または  
「まったくない」  
64 歳以下 (57.4%)  
65 歳以上 (46.8%)

### 活動する高齢者に期待すること／期待されていると思うこと

#### 64 歳以下

「若い世代に知識や技術などを継承・指導すること」 (58.1%)  
「子どもたちに経験や知恵を伝え、次世代を育成すること」 (51.0%)  
「若い世代の仕事をサポート・補助すること」 (29.9%)  
「支えの必要な高齢者や子育て世帯を手助けすること」 (29.9%)

#### 65 歳以上

「若い世代に知識や技術などを継承・指導すること」 (38.2%)  
「子どもたちに経験や知恵を伝え、次世代を育成すること」 (35.6%)  
「地域活動やボランティア活動に一般的な形で参加すること」 (27.9%)

※ 複数回答

## 3 検討・取組を進める上で踏まえるべき観点

生涯現役社会の実現を目指すための取組の方向性を検討するに当たり、前提となる考え方を3つの観点に整理しました。今後、札幌市が具体的な施策の検討・取組を進める際にも、これらの観点を踏まえることが基本と考えます。

### 世代間協調の観点

- 高齢者だけではない多世代の協調を図る
- 世代の相互理解があった上で、分かち合い、補い合い、支え合えるような世代間の協調関係を築く

### 多様性の観点

- 性別、年齢、居住地、健康状態、家計状況などによる多くの差異に配慮する
- 個別的な条件・事情・ニーズなど、多様性に応じられる幅広い選択肢を確保する

### 公共性の観点

- 目的を明確にし、限られた財源を効果的かつ効率的に活用する
- 社会参加を、個人の幸福だけではなく公共の福祉にも資するものとする

## 4 高齢者の社会参加支援の在り方（取組の方向性）

高齢者の社会参加支援の在り方について、観点を踏まえて検討を行った内容を3つの取組の方向性に整理しました。今後、札幌市において取組を具体化していく際には、取組の方向性に沿って施策を立案していくことが必要と考えます。

### つづける意識をつくる

- 年齢によらず、社会との関わりの中で持てる能力を発揮し、できる人ができることをするという意識を、社会全体で共有するための取組が必要

#### 高齢者の意欲を高める取組

- ☑関心や興味を高め、意欲を喚起するよう事例紹介などの情報発信をする。
- ☑やりがいや社会に役立つ実感を感じられるように活動の意義を伝える。
- ☑健康、報酬、仲間、生きがいなど、参加によって得られるものを伝える。

#### 社会の共通認識をつくる取組

- ☑年齢による偏見や年齢だけを理由に区別する取扱いを払拭する。
- ☑生涯にわたる社会参加を、社会的なムーブメントとして共有する。
- ☑定年退職前の世代や子どもなど様々な世代に向けて啓発する。

### つなげるしくみをつくる

- 活動に加わる契機を得られ、自分に合った活動や仕事に出会えるなど、意欲を行動に移しやすい環境を整える取組が必要

#### 参加のきっかけをつくる取組

- ☑活躍している方の体験談や具体的な活動内容を紹介する。
- ☑スキルアップにつながる学習により活動や就労の可能性を広げる。
- ☑新しい関係や活動が生まれるよう、集まりやすい場所づくりをする。

#### 高齢者と活躍の場を結ぶ取組

- ☑互換性のあるポイント制度や情報共有システムなど共通基盤を構築する。
- ☑分野横断的な相談窓口で、条件に応じて高齢者と活躍の場を仲介する。
- ☑人材バンク等を整備し、担い手不足の団体へ適切な人材を紹介する。

### やりたいしごとをつくる

- 志向や健康状態などの異なる多くの高齢者が、積極的に、また、無理をすることなく社会参加をするためには、具体的で明示的な選択肢が必要

#### 活躍の場の魅力を高める取組

- ☑活躍の場となっている町内会などの地域活動が活性化するように支援する。
- ☑高齢者の活躍しやすい役割づくりや活動形態など好事例の共有を図る。
- ☑人材育成や資金・場所の確保などの活動運営を支援する組織を設ける。

#### 活躍の場を広げる取組

- ☑高齢者自身による新たな活動の立ち上げを支援し、活躍の場を広げる。
- ☑高齢者が活躍できる新たな事業を起こす団体や企業と連携する。
- ☑インターンシップの機会を提供するなど高齢者の雇用を促す。

## 5 再構築の基本的な考え方

これまでの取組を検証し、今後の高齢者の社会参加支援の在り方（取組の方向性）に沿ったものとして再構築するため、基本的な考え方を整理しました。この他、各分野における関連する施設・機関等と連携し、効果的かつ効率的に支援体制の構築を図ることが重要と考えます。

- 新たな取組とともに、3つの取組の方向性に沿って生かしていく
- 今の時代に適応するよう社会情勢の変化に応じた整理を行う
- 効果的であるものは事業規模の拡大も含めた機能強化を行う
- 税負担や受益者負担など事業費の負担バランスの適正化を図る
- これまでの事業費を組み替えることで、新たな取組の財源に充てる

### 取組の方向性に沿った活用・強化

- ・ 介護サポートポイント事業  
(活動先を広げる)
- ・ 札幌シニア大学  
(学びを卒業後の地域活動につなげる)
- ・ はつらつシニアサポート事業  
(地域へ効果を波及させる)
- ・ 老人福祉センター  
(社会参加を促進するよう機能強化する)
- ・ ねんりんピック  
(活躍する姿を伝える)

### 社会情勢の変化に応じた整理

- ・ 老人クラブ活動費補助  
(活動の多様化などにつながる補助)
- ・ 敬老優待乗車証  
(高齢化に伴う事業費増大への対応)
- ・ おとしより憩の家運営費補助  
(限られがちな利用状況への対応)

### 委員構成

	(敬称略)	(所属等は委員就任時の内容)
委員長	原 俊彦	札幌市立大学デザイン学部教授
副委員長	飯田 俊郎	青森公立大学経営経済学部教授
委員	池田 啓子	(株)特殊衣料代表取締役社長
(50音順)	喜多 洋子	地域コーディネーターかどまーる代表
	竹川 勝雄	市民委員(公募)
	巽 佳子	市民委員(公募)
	中田 知生	北星学園大学社会福祉学部准教授
	西田 順子	市民委員(公募)
	馬場 伸哉	(社福)札幌市社会福祉協議会地域福祉部長
	牧野 弘志	厚別区町内連合会連絡協議会会長

### 検討経過

第1回会議	平成28年 4月 19日	委員長・副委員長の選任、検討の進め方、検討の方向性
第2回会議	平成28年 5月 16日	取組の方向性と観点、既存事業の役割と課題、調査項目
第3回会議	平成28年 6月 8日	取組内容、調査内容
第4回会議	平成28年 7月 6日	総体としての再構築
第5回会議	平成28年 9月 21日	調査結果(速報)、検討報告書(構成案・骨子案)
第6回会議	平成28年 10月 21日	検討報告書(素案)
第7回会議	平成28年 11月 18日	検討報告書(修正案)

## 札幌市高齢者の社会参加支援の在り方検討委員会 検討報告書—いつまでも活躍できるまちを目指して(提言)の概要

平成28年(2016年)12月  
(事務局)札幌市保健福祉局高齢保健福祉部高齢福祉課  
TEL: 011-211-2976

<http://www.city.sapporo.jp/koreifukushi/sankaku/>



いつまでも社会参加できる街へ